

食道癌により反回神経麻痺を起こした摂食嚥下障害患者の一例

名張市立病院 看護師 時枝夏子

【はじめに】摂食嚥下障害は、食べる楽しみを奪い、闘病意欲や生きる意欲も低下させることがある。今回、反回神経麻痺による声門閉鎖不全により摂食嚥下障害を起こした患者の摂食嚥下訓練に関わった。患者は闘病意欲をなくし、摂食訓練に否定的であった。患者のできる能力を高めることで摂食が可能となり、闘病意欲を取り戻すことができた症例を経験したため報告する。【症例・経過】78歳、男性。ささやき声しかでない、2か月前より食欲不振と体重減少を認め、外来を受診した。食道癌術後であり、入院時の上部消化管透視検査で誤嚥を認めた。患者は誤嚥をしたことにより恐怖感を持ち、経口摂取、リハビリテーション、治療を拒否した。まず、医療者と信頼関係を築き、声門内転訓練の必要性を説明するが拒否された。そこで、患者のできる能力を伸ばし、患者のタイミングで出来る訓練方法としてスーフルを用いた呼吸訓練を提案すると同意を得られた。結果、音声障害と咳嗽力の改善が見られ、入院から1か月を経て改訂水飲みテストを実施することができた。【結論】スーフルを用いた呼吸訓練により、声門閉鎖を促すことができ、音声障害と咳嗽力の改善に繋がり、段階的摂食訓練を進めることができた。経口摂取が確立したことで闘病意欲を取り戻し、在宅へ自信をもって退院することができた。